

# 夏季教化研修会



副野氏講演



高山氏講演

教化実践目標である「氏子意識の啓発と家庭のまつりの振興を目指して」を総合テーマとして夏季教化研修会が8月26日、若宮八幡社（名古屋市中区：副野均宮司）を会場として開催され、68名が参加しました。

まず午前9時半に若宮八幡社正式参拝の後、開講式に移り、白井副庁長より会場を提供いただいた副野宮司に対する謝辞がなされ、その後、本日の研修が個人にとって意義ある研修にさせていただきたいとの挨拶がありました。

午前中の研修では副野均氏を講師として「塀の中の神社神道」と題した講演がありました。氏は現在、神社本庁教誨師の委嘱を受けており、その立場から教化の重要性について講演をいただきました。氏はまず自身の幼少期の見た「祈っては働く」という祖父母の姿が自身の「感謝」という原点となっているところから、これまで教誨師として様々な受刑者と対応について様々なエピソードを交えて、信仰の大切さや受刑者から学ぶ姿勢について丁寧に講演いただきました。

昼食をはさみ午後からは神社新報社社長で乃木神社名誉宮司の高山亨氏を講師として「明治の精神（こころ）—乃木将軍ご夫妻の生き方とおして—」と題して講演がありました。高山氏は自身が宮司として奉職された乃木神社の御祭神である乃木希典大将の生き様に触れ、乃木大将は約束を厳守する、公私の区別を厳格にするなど、対象の極めて厳しく、誠実な生き方を後世に伝えることやその精神を神職そのものが体現することが重要ではないかと述べられました。

講演終了後、参加者は「氏子意識の啓発と家庭のまつりについて」と題して、六班に分かれて分科会を実施しました。各分科会ではそれぞれ奉務する神社及び地域での実情について活発な意見交換がされました。分科会終了後、各班代表者による報告がなされました。

閉講式では三浦教化委員長より受講者代表に修了證が手渡され、研修を締めくくりました。